

第3回「IF@N: 名古屋大学国際学生フォーラム」

田所 真生子 ・ 虎岩 朋加 ・ 渡部 留美

はじめに

名古屋大学国際学生フォーラム、通称 IF@N (アイファン) は3回目を迎え、関係者の間では少しずつではあるが認知度が上がってきたのではないかと感じている。過去2回は夏休み前に学生実行委員を募集し、9月頃からミーティングを持ち、準備を進めるという段取りであった。2012年度は、前期に複数回のセミナーを提供し、実行委員が様々なスキルを身につけたうえでスムーズに IF@N の企画・運営に入れるよう工夫をした。すなわち、年間を通した「名古屋大学グローバル・リーダー育成プログラム (通称: MEIPLES -メイプルズ)」というプログラムを新たに立ち上げ、IF@N は MEIPLES の一部という位置づけとなった。MEIPLES の活動については、本紀要の「実践・調査報告」に詳しく報告しているので、ここでは、第3回 IF@N の報告を行う。

第3回 IF@N 概要

2012年11月10日(土)、名古屋大学文系総合館にて第3回 IF@N を開催した。10名の実行委員と3名の教員コーディネーターが9月から当日まで10回程度の全員ミーティング、各実行委員はそれに加えてグループごとや役割ごとに打ち合わせをもち、当日に向けて準備を進めた。

IF@N のコンセプト「出会う・繋がる・広がる」のもと、第3回のテーマは、「グローバルメンバーになろう! ~ Access to the World ~」になった。時間配分は第2回と大枠は同じで、グループに分かれてのディスカッションを午前と午後2回、その後、全員集合しての発表会、グループを超えての交流、意見交換を行い、終了後は希望者を対象に懇親会を持った。

当日は29名(留学生9名)の参加者が下記の5グループに分かれてディスカッションを行い、実行委員は2名1組でグループを担当しファシリテーターを務めた。今回は、前期で実施したセミナーのうち、公開ワークショップに参加した他大学の学生にも声をかけたところ、名城大学、南山大学から参加があり、より多様な学生の集まりとなった。

ディスカッショングループとテーマ

- A: キャンパス・ライフ「充実した大学生活とは?」
- B: ジェンダー「国際的にジェンダーを考える
~恋愛・結婚の視点から~」
- C: 文化「画一化される社会をどう捉えるか?」
- D: 英語教育「日本の英語教育を根本から見直す」
- E: 国際政治・社会「領土問題はなぜ生じるのか?
~対立から協調を目指して~」

実施を振り返って

当日は、予想したことであったが欠席者が多くい



た。変更可能な参加者にはグループを移動していただいたが、できるだけ希望のグループのままでディスカッションを行ったため、グループによっては人数が偏ってしまった。事前に準備していたアイスブレイクのゲームができないなど、実行委員にとっては調整に苦労したところがあったが、そこはファシリテーション能力で乗り切ったようである。

全体的にみても、大きな問題は起こらず、初めは緊張していた参加者もディスカッションが始まるとすぐに打ち解け、和やかな雰囲気で開催が進んだ。終了後のアンケートからは、次回も参加したい、ディスカッションが楽しかったなどの記述があり、大変高い評価を得ることができた。懇親会では、来年は実行委員になりたいと申し出てくれる参加者もいた。

どの実行委員も当日までディスカッションの進行について大変心配しており、多くの情報を収集したり、資料を用意したりしていた。しかし参加者の終了後

の様子を見る限りそれは杞憂に終わったようである。コーディネーターからみても、IF@Nのテーマ決め、広報、当日の進行、報告書作成など一連の活動はスムーズであった。それは前期のセミナーで学んだ知識や経験が活かされたからなのではないかと思う。IF@Nの成功によって、実行委員を経験した学生は、今後どんな困難にぶつかっても壁が立ちふさがっても、軽やかに乗り越えていける自信と実力をつけたと確信している。

おわりに

コーディネーターにとっても毎回IF@Nを実施するごとに、課題を見つけたり、新たな発見をする。コーディネーターも毎回新たな気持ちで取り組み、学生の成長を見守り、学生と共に成長していけるよう心がけたい。

